

第1は、「地域資源のネットワークによる活発な産業づくり」についてであります。

（企業誘致の推進と地場産業の振興）

『雇用の場の確保』に向け、これまで地場産業の支援・育成はもとより、企業誘致、大田市産品の販路拡大など、積極的に取り組んでまいりました。特に新産業創出の観点から、昨年、島根中央地域職業訓練センター内にインキュベーションルームを開設し、IT関連企業を誘致するとともに、六次産業化に向けた加工場の新設等、新たな動きも出てきたところであります。

また、大田町本通商店会協同組合や大田商工会議所などとの連携により、旧大型商業施設跡地の利活用による、商店街再生へ向けての動きも活発化してきています。大田市産品においては、おおだブランド認証商品を中心に首都圏や広島圏域での取り扱いが広がりを見せるなど、これまで着実に積み上げてきたことが成果となって表れてまいりました。

引き続き、新産業創出や市内企業の支援、企業誘致、大田市産品の取引拡大や人材育成など、地域産業の活性化に向け、「大田市産業支援センター」を中心に積極的に推進してまいります。

（観光の振興）

今月には山陰道「仁摩・温泉津道路」が完成するほか、中国横断自動車道「尾道松江道路」の全線開通が予定され、本市においてもいよいよ高速道路時代が幕開けいたします。特に関西、山陽、四国方面からのアクセスが大幅に改善することから来訪者の増加が期待されるところであり、引き続き島根県、関係自治体と連携し、観光客の広域周遊やインバウンド対策等積極的な誘客活動を展開してまいります。

世界遺産石見銀山遺跡につきましては、2年後の平成29年に世界遺産登録10周年の節目の年を迎えます。これを契機として石見銀山遺跡をはじめ、国立公園三瓶山、琴ヶ浜などの恵まれた自然・歴史・文化資源を生かし、魅力ある地域づくりを

進めるとともに、関係団体の協力のもと実行委員会を組織し、全市を挙げた取り組みとなるよう機運の醸成を図りつつ、さまざまな取り組みを進めてまいります。

また、「石見銀山遺跡」を中心とした新たなブランドイメージを構築し、来訪者への情報発信と市内各地域での特色を生かした旅行商品や土産物の開発を推進してまいります。さらには大田市観光協会の自主、自立を目指すとともに、さらなる組織体制の強化に向けて、組織の要となる専門職の配置や民間感覚を生かした収益事業の拡大など、市全体の「観光産業」を牽引する組織となるよう全面的に支援してまいります。

（農林業の振興）

中山間地域においては、農業従事者の減少、高齢化に加え、鳥獣被害が増加し、米価が低迷する中、個々の単位では農地の保全が困難になってきております。集落間の連携により地域が主体的に地域課題の解決に向けて取り組むことができるよう、地域間連携の取り組みをコーディネートする支援員を配置し、農地保全、農地の有効利用に結び付く各種事業の横断的な推進を図ってまいります。

また、本市は農業生産額の6割を畜産が占める県内有数の畜産基地ではありますが、取り巻く環境は厳しさを増しており、地域内の関係組織、団体、農業者等を構成員とする協議会を組織し、生産基盤の拡大に向けて施設整備を行ってまいります。

さて本市は、森と水、山、里、海の多様かつ希少で美しい自然、循環系に恵まれています。しかしながら一方で、森林の荒廃化や磯焼けと云われる現象等、環境悪化が進みつつあるのも実態であり、本市の美しい自然を守り、活かし、未来に伝えていくことは、今を生きる私たちの責務であると同時に、活かすということにおいては地方創生における重要な柱の一つと考えます。

森林、林業、木材産業振興発展に向けた取り組みを強化するとともに、「大田市森林整備計画」を基本にゾーニングなどを進め、環境、観光、教育、文化等、多面的

に活かすことで、森林再生や環境保全につなげます。そのため、組織体制を拡充・強化いたします。